

知ってください！これが被災した母子家庭の現状です！！



マザーリンクの
WEBサイトへ

被災地でも『母子家庭の貧困』=『子どもの貧困』です。
長文ですが、どうか最後までお読みください。

『子ども三人いて3年間“ずっと一日一食だった”』

『子ども5人。一日一食の生活がずっと続いた。何度も心中しようと思ったけど、誰の首から絞めようって考えているうちに夜明ける。子どもが多かったから死なずにすんだ』

『子どもの靴も買えず小さくなった靴のかかとを踏ませて我慢させている』

『遺児家庭にある支援がなく、私が死ねば子どもを進学させられたのに。』

『5歳の子どもを持つ20代のシングルマザー。津波で曾祖母の介護をしていた祖母が亡くなった。痴呆で徘徊する曾祖母の様子を見に、配達の仕事の合間に仮設と仕事を日に何度も往復する日が続いた。特養もいっぱい入れない。家事も子育ても介護も一人でやる。昨年夏、とうとう続かなくなり仕事を辞めた。彼女の収入は児童扶養手当と子ども手当だけ』

『思春期の娘が震災以降おかしくなった。リストカットと自殺未遂を繰り返している。傍にいて何とかしたいけどどうにもならない。子ども三人養っていかないと。』

これらの家庭は月収7~8万程度です。中には4万という家庭も。こういう家庭が沢山あります。臨時雇用の仕事を失って、この春から無職になったシングルマザーもいます。遺児家庭以外のこういった母子家庭にはどこからも支援の手が差し伸べられていません。

母子家庭の貧困=子どもの貧困です！

日本の母子家庭の貧困率は58.7%、子どもの貧困率は16.3%

※この場合の貧困の定義は年収122万円以下

これは遠い途上国の話ではありません。今の日本の現状です。

日本は先進国の中で最も母子家庭の貧困率と子どもの貧困率が高い国です。

被災地の母子家庭は津波で実家や職場が流されたりと複雑な問題を抱え更に深刻な状況です。

母子家庭の貧困の根本原因

全国共通

- 社会や行政による離婚家庭に対しての偏見や無理解。
- 不正受給問題の報道により生活保護申請の敷居が上がった
- 女性の労働対価が低すぎる
- 離婚家庭では父親からの養育費ない

被災者特有

- 震災で職を失い収入が激減した。
- 震災で実家が頼れなくなった。
- 学校が流され仮校舎が遠く、送迎の為にパートの時間を減らした。
- 震災の影響で夫のDVが増え離婚。
- 子どもがPTSDで一人で留守番出来ない等。

『僕たちの学校創ろう！プロジェクト』

PTSDで不登校になった子どもたちの失われた時間と笑顔を取り戻す支援

震災当時小1だった女の子が震災後PTSDの影響で不登校に。本来ならば小6。同じ年頃の子どもの中で成長する大切な時期を丸ごと失ったまま、何の支援もなく、5年間放置されたままです。同じように学校に行けなくなり、放置されたままの子どもが大勢います。ひとり親では対応できずに不登校が長引くことが多く、そういった子どもの居場所もありません。工事車両が行き交う中では震災前のように友達の家に行き来することも出来ずに、仮設に閉じこもるしかないので。また、生活困窮家庭では、学童保育の費用や部活に掛かる費用が捻出出来ず、こういった子どもたちには放課後の居場所もありません。夏休みには一層深刻な状況となり、夏休み明けに不登校になる子どもが多いのです。

私たちは震災の影響で不登校や引きこもりになったり、貧困で学童保育に通えない、部活動が出来ない等困難を抱えるひとり親家庭の子どもたちの孤立防止と自立を目的に居場所を作り、支援を行いたいと思っています。一年目は場所を確保し、日中いつでも受け入れられる体制を整える。おやつや食事の提供、学習支援や、自己肯定感を高める為の体験活動等を行う。心のケアに繋げる為にアートなどの創作活動や音楽活動を取り入れ、心を癒す活動を中心とし、少しずつ通常の学習支援に移行出来たらと考えています。不定期で講師をやる、アートや音楽のワークショップをやる、資金を提供する、寄付を呼びかける等、皆さんこの活動に、あなたなりの形で参加しませんか?!一緒に子どもたちの学校を創りましょう。



きっと、大丈夫！桜プロジェクト

『被災地のシングルマザーが子どもと生き抜くための教育プログラム』

マザーリンクでは2012年より仮設に入居する『ひとり親家庭』の支援を続けています。本当に困っている人は自分から声をあげません。私たちは活動案内のちらしを持って一軒一軒彼女達の仮設を回りました。ひとりひとりの話を熱心に聞いてまわるうち、生活に疲弊しきっている彼女達の現状が見えてきました。私たちは食糧支援を続けてきましたがそれは先の見えない活動でした。そして、パソコンが使える使えないで収入に大きく差が出る事がわかりました。単に収入面だけでなく、パソコンやインターネットが使えないことで適切な支援制度や仕事の情報にアクセスすることも出来ません。パソコンが使えるれば、後々の就労支援につながるのに。これがこのプロジェクトを始めるきっかけです。被災地の母子家庭の貧困は深刻で、子どもを養ったり進学させるのに十分な収入はなく、生活保護家庭よりもずっと低い水準の生活を余儀なくされています。月収10万以下、実家も頼れないという超生活困窮母子家庭の母親に対し、2015年4月より無償のパソコン講習と在宅ワークに繋げる支援をしています。彼女たちは子どものために必死で生きてます。これは単にパソコンを教える支援ではありません。文字通り『被災した母子家庭のお母さんたちが子どもを抱えて生き抜く為の教育プログラム』です。これは決して大げさな表現ではありません。遠く離れた途上国のことではなく、日本のお母さんの象徴としてプロジェクトのネーミングに『桜』を使っています。

支援したいと思ったら!!

マンスリーサポーター募集

1日50円からの継続支援 (月1500円~)



月3,000円でできること
月一回の食料支援
個別訪問

月1,000円でできること
お母さんにパソコン講習
一ヶ月間

お申し込み方法

銀行自動振込

添付の申し込み用紙に記入



用紙をマザーリンクに郵送

送り先

〒150-0031
東京都渋谷区桜丘町15-8
桜丘ビジネスクラス601

カード決済のご利用

WEBサイトから申込

<http://www.motherlink-japan.org>

<http://www.motherlink-japan.org/ml/donation.html#01>



一日50円からの寄付
月3000円で母子家庭に出来ること
月1回の食料支援と個別訪問
月1万円で母子家庭に出来ること
お母さんにパソコン講習1ヶ月

継続的に支援する

カード決済で

マンスリーサポーターになる!

銀行引き落としで

マンスリーサポーターになる!